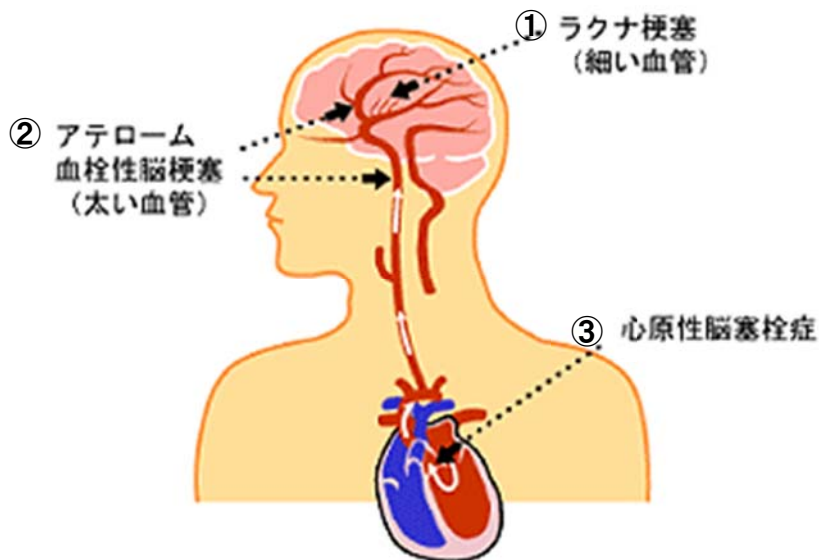


第3話 脳梗塞とかくれ脳梗塞

〈第2話〉では、脳梗塞は血管が詰まる病気だとお話しました。
では脳の血管はなぜ詰まってしまうのでしょうか。

(1)脳梗塞には血管の詰まり方で、3つのタイプがあります。

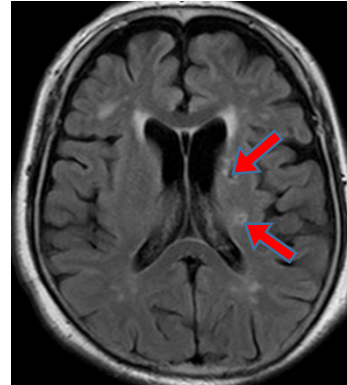
① ラクナ梗塞	② アテローム血栓性脳梗塞	③ 心原性脳塞栓症
脳深部の細い血管の動脈硬化によって、血管が閉塞	頸部や脳表の太い血管の動脈硬化によって血栓が形成	心臓内に形成された血栓が、脳の動脈に飛来し閉塞
危険因子は高血圧	危険因子はタバコ、糖尿病、脂質異常症、高血圧	心房細動が最大の危険因子、その他に弁膜症など



(2)あなたも「かくれ脳梗塞」かも？

MRI 検査を行うと、ラクナ梗塞が偶然に見つかる場合があります。これを無症候性脳梗塞といい、一般的に「かくれ脳梗塞」と呼ばれています。

かくれ脳梗塞の MRI



(3)「かくれ脳梗塞」が発見される割合は？

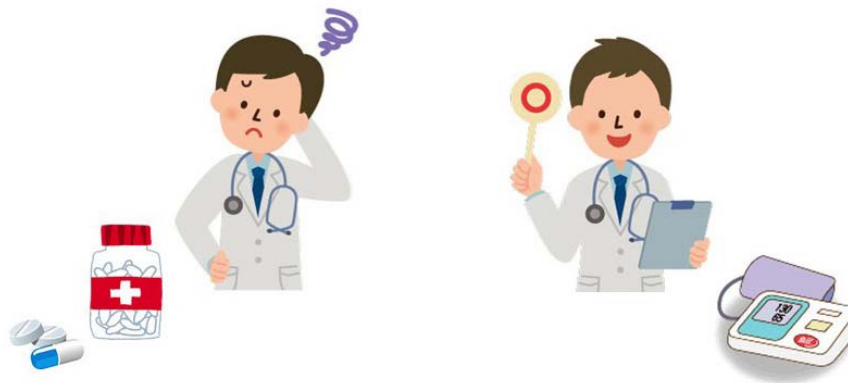
50～60 歳台で 10～20%前後とも報告されています。かくれ脳梗塞は、脳卒中および認知症発症の重大な危険因子です。

(4)「かくれ脳梗塞」には、どんな治療をするの？

見つければ、どなたも心配されると思います。

“血液をサラサラする薬”(抗血小板薬)が、症状を生じた「本物の脳梗塞」の治療には使われます。しかし、この薬は症状の出していない「かくれ脳梗塞」には、勧められないとされています(2015 年脳卒中治療ガイドライン)。症状のない段階で投与すると、脳出血を起こす危険性の方が、逆に高くなるのが危惧されているからです。

まずは最大の危険因子の血圧を十分にコントロールします。



(6)「かくれ脳梗塞」と言われた方へ？

かくれ脳梗塞とよく似た画像所見があり、かくれ脳梗塞と誤って診断されている場合も少なくありません。

専門医での診断やセカンドオピニオンをお勧めします。